

楽しくてたまらない、みのり太鼓の魅力



創作和太鼓集団 みのり太鼓

もり と ゆう き
森戸裕稀さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.199

みの〜れの大きなケヤキやクヌギの木の若葉は、少しずつ色が濃くなり50日ほどで最大の大きさの葉っぱに成長するそうです。よく見ると小さな豆粒みたいなものがついていますが、それがケヤキの花のようです。今回は、創作和太鼓集団みのり太鼓のメンバーで、石岡市にお住まいの森戸裕稀さんを紹介いたします。

実感している 活動教育効果

みのり太鼓に入団したのは小学5年生。同級生に誘われて入団したと話す森戸さんは「やってみたらハマっちゃいました」と笑顔で振り返ります。

入団して今年で13年目ですが「これまで休んだのはほんの僅かで、練習への参加率はダントツで高いです」と胸を張る森戸さん。「同期のみんなが負けず嫌いで、入った頃はポジションの取り合いでした。これが熱中した理由ですな」。現在は自身のレベルアップに関心があり、「自分が成長したところをお客さんに観てもらえる場としてのみのり太鼓に魅力を感じています」と話します。

昨年2月に開催された、みのり太鼓30周年記念公演で演出と構成を担当。バランス

よく舞台を創ることの大変さを感じつつ、チーム全員の気持ちと同じ方向を向くように持っていくのにとっても苦勞しましたが、最後の最後まで粘り強く調整。本番当日は一つにまとめることができ、充実感と達成感を味わいました。「何回経験しても舞台が始まるまではドキドキしますが、公演後『かっこよかったよ』とお客さんから声かけしてもらえるのが嬉しいんですよ」と笑顔。

口伝(くでん)で練習する和太鼓。口で伝えて、目で見て、耳で覚えて、自分の身体で実現させます。年上のメンバーが年下の子たちに教えますが、自分で努力してこそ、体得したときに自分の自信になるため、あえて教えすぎないように心がけ、「難しいところを乗り越えたら自分のものになるよ」と伝えていきます。

みのり太鼓は、年齢に関係

なく意見し合います。そのおかげで「社会に出てから会議の場で年上の人にも自分の意見や気持ちを伝えられています」と森戸さん。自身の経験から、みのり太鼓の活動を通じた教育効果を実感。

みの〜れと本格的にパートナーシップを組んで2年。14のプロジェクトチームが連なる「みの〜れパートナーズ」を通じて交流が盛んになり、知り合いも増えました。「みのり太鼓にとつて、みの〜れはもはやなくてはならない場。高め合える人たちと出会うことができ、お互いに意見や考えを話し合える場です」と価値を感じています。

「いま、みのり太鼓の新曲を作っていて、楽しくてたまらないんです」と笑顔で話す森戸さん。みのり太鼓の公演で、新曲がお披露目される日を楽しみにしています。

(藤田佐知子)